

ウォールアート・フェスティバル・イン・ニランジャナスクール  
(WAF in NIRANJANA SCHOOL)

～インドの片隅にある小さな村の学校から、世界へ広がる芸術祭～  
2010年2月20・21・22日、インドにて開催決定！

プレスリリース

ウォールアート・プロジェクト  
2009. 12. 23.

私たち「ウォールアート・プロジェクト」は、インドでも最貧困州と言われるビハール州のスジャータ村で、学校の壁などを利用したアートフェスを開催します。

識字率 48%という教育発展途上の村で、  
一生懸命に勉強する子どもたちの学校から発信する  
「ウォールアート・フェスティバル・イン・ニランジャナスクール」。

2010年2月、スジャータ村は、  
アートの震源地、ひとつのパワースポットとなります。

オフィシャル・ウェブサイト

<http://wafes.net/>



ニランジャナスクールのニマ村の分校で勉強する子どもたち

Photo by Akiko Ookuni

Q 『ウォールアート・フェスティバル・イン・ニランジャナスクール』って  
どんなスタイルの芸術祭ですか？

A インドの学校の白い壁に直接、絵を描いて、訪れた人に鑑賞してもらう芸術祭です。ウォールペイントで注目されている日本人とインド人、ふたりのアーティストがビハール州、スジャータ村に滞在しながら、インスピレーションを得たことをそのまま壁に向かって、壁画を描いてゆきます。その壁はたとえば学校の教室かもしれないし、階段の踊り場かもしれない。もしかしたら、通学路でみつけた石かもしれません。

【フェスティバル開催日程】 2010年 2月20、21、22日

【場所】 Niranjana School: Sujata Village, Bodhgaya, Bihar, India pincode824231

Q 壁画を描くふたりのアーティストは、どんな人たちですか？

A 日本から参加するのは、浅井裕介さんという28歳の新進気鋭の作家です。描くことを至上の喜びとし、インドネシアで行われた「Kita!!」展（2008年4月）において現地で採取した4種類の土を使った横幅30mにも及ぶ「泥絵」シリーズを制作したり、横浜に道路用の白線を使用して全長180mもの植物の絵を、地元の小学生と制作するプロジェクト（2008年7月）を行なってきました。

[http://www.arataniurano.com/artists/asai\\_yusuke/](http://www.arataniurano.com/artists/asai_yusuke/)

これは昨年の「赤坂アートフラワー」という展覧会で描いた作品です。採取した泥を使ってさまざまな色分けをして描いています。



「泥絵・昨日と明日の半分」(部分) / 赤坂アートフラワー2008 旧赤坂小学校 東京

写真：加藤健



「泥絵・光る根 山の掬」 / c t i y n e t A s i a ソウル市美術館 韓国



「マスキングプラント」(部分) / 刺繍のワッペン トタンギャラリー 東京

インドからのエントリーは、スリージャタ・ロイ (Sreejata Roy) さん。

<http://parkdpuri.blogspot.com/2009/01/as-artist-with-particular-interest-in.html>

やはり世界を舞台に描いている滞在型の作家。インド、ニューデリーの荒れた公園の壁に、子どもたちといっしょに絵を描いて、注目されています。これがそのときの作品です。



Photo by  
Kazunori  
Hamao

Q なぜ、このふたりのアーティストなのですか？

A 土色をしたスジャータ村にあるニランジャンスクールにとても似合う画風であり、アートとしての完成度が高く、子どもたちにアートの力を存分に伝えてもらえるからです。そして幸いなことに、ふたりとも、子どもたちとのワークショップを手掛けてきています。今回も、いっしょに描くことを楽しみにしています。このフェスでも、子どもたちとのワークショップも予定しています。

Q なぜ、ニランジャンスクールで開催するのですか？

A まず、ニランジャンスクールはどんな学校かを説明します。この学校には現在幼稚園から7年生（14歳）までの生徒が通っています。1999年にスジャータ村出身の青年シッダルタ・クマル氏が、地域の発展を願って立ち上げた現地トラストです。2006年、日本の東京学芸大学の学生団体「fools」の50人が、白い鉄筋の校舎をプレゼントしました。汗水たらして、バイト代を800万円貯めてインドに学校を建てたというアクションは、今も学芸大学で語り継がれています。それは、将来先生になろうとする学生たちが自主的に行なった、心躍るストーリーのひとつなのです。

2006年に校舎が建ち、学校に通っていなかった子どもたちも通い始め、今ではそこで300人もの生徒たちが学んでいます。寄宿舎には20人の孤児たちが共同生活をしながら、通っています。スジャータ村の教育事情とニランジャンスクールのことが2009年5月にNHKBS1の「今日の世界」で放映されましたので、ご覧いただくとわかりやすいと思います。<http://www.youtube.com/watch?v=9ArD8HBkxOA>



ニランジャンスクールでの  
授業風景

Photo by Akiko Ookuni

けれど、それだけの学校を維持していくためには大変な費用もかかるし、さまざまな整備が必要です。世界各国からランダムな形で寄付が集まっていますが、できれば、インド現地の人間でしっかりと学校運営することが目標でもあります。そのために、この学校でたくさん

の子どもたちが学んでいることを、世界の人々に知ってもらうことからはじめようと、このプロジェクトが立ちあがりました。根っこのメンバーは学校を建てた「fools」の流れを汲む学芸大出身者と、彼らの行動にコミットしてきた人たち。インド人の学校スタッフや村人とチームを組んで着々とプロジェクトを進めてまいりました。このフェスに訪れたアート好きな人たち、旅好きの人たちが、こんな学校があることを伝えあって、村人たちも学校っていいねと思ったり、ひとりでもたくさん子どもが学べるといいと願ったりしてもらいたいと思っています。ひとりひとりが思うこと、それがムーブメントになっていく。その芯の部分からまず作るのが、このフェスの目的です。

そのために、先に紹介させていただいたように、一線で活躍中のアーティストを招くことを主眼にしました。この芸術祭は、持続可能な支援のひとつのモデルケースでもあります。ニランジャンスクール <http://www.npws.org/>

Q プロジェクトを主催しているのはどんな人たちですか？

A ニランジャンスクールを支援し続けている日本の団体ニランジャンセワサンガ(NPO 認可取得中・代表 山中章代)を母体として、その中の有志が集まってプロジェクトを進めています。「現地を主体にした持続可能な支援は何か？」と考え、学校を建てた学生団体「fools」メンバーのひとりが、あの白い壁を何かに使えないだろうか、と提案したことがスタート地点でした。

ニランジャンセワサンガには現在 130 人以上の会員がいます。その中で、発信することで世界の子どものことを伝えたいと思ってきたライターのおおぐにあきこがー母親の立場で学芸大の学生と出会い、このプロジェクトが進み始めました。現在、日本では代表も務める、おおぐにあきこ、現地インドでは、留学中であり、ニランジャンスクールのボランティアコーディネーターを務めている浜尾和徳が中心となってプロジェクトを推進中です。

ニランジャンセワサンガ <http://npws.org/jtop.html>

Q このプロジェクトに参加するボランティアはいますか？

A 日本で広く募集しています。今現在(12月10日)日本からは学生を中心とする10人のボランティアがフェス当日に向けて旅立つ予定で待機しています。これからもまだまだ増えそうです。そして、インドでは、ビハール州ブッダガヤの美術学校の生徒たちがキャンペーンの一環としてフライヤー作りを進めています。また、アート担当、メディア担当、エマーゼンシー担当・・・など、さまざまな役割分担が決められ、来年以降、インドの人たちが自分たちで芸術祭を推進していけるようなシステム作りも同時に進んでいます。

Q このプロジェクトを後援、協賛する団体や企業はありますか？

A 日本における国際交流基金がアーティスト、スタッフの渡航、滞在費をサポートしています。さらには、日本の企業がアーティストフィーやキャンペーン費、運営費をサポートしています。通信関係のインドと日本の合併企業、輸入会社など、さまざまな企業への働きかけが今まさに行われているところです。

Q どんな取材方法がありますか？

A 1) 告知記事の掲載 2) 現地取材 3) 記事および写真の掲載の方法からお選びいただけます。

#### 1) 告知記事

このリリースをもとに告知記事をご執筆いただけましたら幸いです。写真も提供させていただきます。ご一報ください。

連絡先 おおくにあきこ [akiko@blue-bear.co.jp](mailto:akiko@blue-bear.co.jp) 090-2328-0230

#### 2) 現地取材

ウォールアート制作中からの取材が可能です。(浅井氏は2月13日からスジャータ村滞在) スタッフ人数や取材方法を伺って、現地でなるべく取材がスムーズに進むよう、コーディネートさせていただきます。なお、フェスティバル期間中は、オフィシャルの通訳が待機し、ヒンディー語、日本語、英語に対応しますので、詳細な作家インタビューなども、可能です。渡航費、滞在費はご負担願います。

#### 3) 記事および写真の掲載

媒体に依りて、記事や写真を提供させていただきます。

このプロジェクトにコミットしていて、壁画制作初期より現地に向かうオフィシャル写真家、ライター、コーディネーターは以下のとおりです。なお、このプロジェクトにはオフィシャルの通訳者がいます。クオリティの高い記事の提供が可能です。

☆写真家 中川十内 日本大学芸術学部写真学科卒。長年にわたり、商業フォトの第一人者として活躍。被写体を独自の目線で美しく表現。インドでは、スジャータ村に出現するアート作品と制作中の作家像、学校の子もたち、村人たちを撮影する。

☆ライター おおくにあきこ 月刊誌をフィールドに、旅やインタビュー、書評などの記事を執筆。おもな執筆誌 集英社『LEE』・『エクラ』・『マリソル』・『UOMO』 etc.

なお、おおくには、このプロジェクトの統括者でもある。

<http://www.blue-bear.co.jp>

☆現地コーディネーター 浜尾和徳 東京学芸大学を卒業後、2009年9月より、インド国立マガダ大学の留学生として、日本語クラスの助手として、またニランジャナスクールのボランティアとしてニランジャナスクールへ。スジャータ村のあるブダガヤで人脈を拡大。現地の人々に信頼も厚く、さまざまな活動に対応する。

#### ☆問い合わせ先

おおくにあきこ [akiko@blue-bear.co.jp](mailto:akiko@blue-bear.co.jp) 090-2328-0230

〒157-0065 世田谷区上祖師谷7-6-1-201



ご取材お申し込みシート

送り先 [akiko@blue-bear.co.jp](mailto:akiko@blue-bear.co.jp) FAX03-5314-7635  
WAF 代表 おおくにあきこ

お名前

御社名

媒体名

ご取材の目的（誌面、テレビ、映像など具体的にお願いします）

取材の方法（○印をつけてください）

- 1) 告知掲載
- 2) 現地取材
- 3) 記事および写真の掲載

取材に関してのご質問、リクエストなど